

## 高校生・受験生を対象に「薬学部OPEN Lab」を開催しました。

2024年9月14日(土)、薬学部主催による「OPEN Lab」を開催しました。当日は9名の高校生・受験生が参加。5つのグループに分かれて、担当教員や薬学生と一緒に、実際の研究活動を体験。最新の薬学研究や最先端の実験装置を間近で見て、聞いて、ふれて、薬学の楽しさ、面白さを体感しました。



実験  
1

### 炎症性疾患病態マウスの皮膚の中をみてみよう！

〈担当/安東 嗣修〉

自然発症アトピー性皮膚炎マウスモデルの皮膚の凍結切片を各種染色液で染色して顕微鏡観察し、健常マウス皮膚と比較しました。



実験  
2

### 分化させた細胞の形態を観察しよう！

〈担当/衣斐 督和〉

分化する前の細胞と分化させた細胞(脂肪細胞と筋管細胞)にさまざまな染色を行い、形態の変化を観察しました。



実験  
3

### 心不全モデルマウスの心筋細胞内の収縮装置をみてみよう！

〈担当/片野坂 友紀〉

培養細胞の調製や、正常および心不全モデルマウスの心臓組織の染色を行い、心筋細胞の収縮装置を共焦点レーザー顕微鏡で観察しました。



実験  
4

### 細胞などから糖鎖を精製して構造をみてみよう！

〈担当/篠原 康郎〉

培養細胞から糖鎖を精製し、その構造を質量分析装置で調べる方法を体験しました。



実験  
5

### アレルギーが起こる時に細胞内に現れる変化をみてみよう！

〈担当/福石 信之〉

アレルギー物質により肥満細胞の内部にあるタンパク質がどのように変化するかを、ウェスタンブロット法を用いて観察しました。



懇親会

実験終了後は、薬学部の教員や在学生と懇親会。薬学部での学びや学生生活の様子を聞くことで、入学後のキャンパスライフのイメージが広がりました。

## 薬学の面白さを体感して、将来への夢が大きくふくらみました！



左から水野愛菜さん、宇井星日さん、仲三河桃花さん(共に金城学院高校3年生)

アレルギー疾患がなぜ起こるかということに興味があったので、今日はそのメカニズムを自分の目で見ることができ、ワクワクしました。薬学部の先生と学生の距離が近いことも魅力でした。将来の夢は、新薬の開発に携わること。今日はその夢への第一歩です。(水野さん)

「分化させた細胞の形態を観察しよう!」というテーマで、細胞を観察しやすいように染色して、顕微鏡で観察。初めて筋肉細胞を見ましたが、細長いことにびっくりしました。私たちの身体はこういう細胞でできていることを改めて実感し、科学って面白いなと思いました。(宇井さん)

アトピー性皮膚炎のマウスの皮膚と正常皮膚の違いを顕微鏡で観察しました。私自身、アトピー性皮膚炎で悩んでいるので、こうした実験を繰り返して治療薬を模索していくことがわかり、「薬学の研究をしてみたい!」という思いがますます強くなりました。(仲三河さん)



## 心をひとつに、奏でる、つながる。 ハンドベルクワイア、16年の歩み。

幼稚園でハンドベルの活動が始まったのは2008年10月。日本で一番最初にハンドベルクワイアが誕生した学校が金城学院であることから、ぜひ幼稚園でもハンドベルクワイアを、という願いのもとに始まりました。当初は課外活動としてのみのハンドベルでしたが、その2年後の2010年度からは日々の保育の自由遊び中の『ハンドベルコーナー』として月一回程度行われるようになりました。学年に関わらず誰もが参加することができ、ハンドベルだけではなく、タンバリンやカス

タネットといったさまざまな楽器の演奏や歌を楽しんでいます。コーナーの開始から10年以上経った今もそれは変わらず、ハンドベル講師をお迎えしての活動が続いています。コーナーがあるのを楽しみにしている子どもたちも多く、朝から「今日はハンドベルコーナーへ行こうと思ってるんだ!」と嬉しそうに話してくれます。



ハンドベルコーナーでの演奏風景

### ハンドベルは「神さまの愛」を伝える楽器。

毎年春には、クラス活動の中でハンドベルという楽器の歴史やその使い方を子どもたち全員に伝えています。ハンドベルは一つひとつ大きさも音色も違うことから、一つひとつがかけがえのないものであり、また、一人では曲が演奏できないことから、心を一つにして演奏する必要があります。ハンドベルという「神さまの愛」を伝える楽器を通して、一人ひとりの存在の大切さや仲間の大切さについて、子どもたちに伝えています。幼稚園に入園して、初めてハンドベルという楽器を知る子どもたちも多く、今まで見たことのないピカピカと光り輝く楽器に興味津々。「ハンドベルコーナーっていつあるの? いつ、僕もやれる?」という声も聞こえてきます。



真剣な眼差しで演奏に励む子どもたち



園内にハンドベルの  
美しい音色が響きます



### 合同礼拝では讃美歌の伴奏も。

最近では、ハンドベルコーナーで演奏を楽しむ有志の子どもたちによる礼拝での奉仕活動も行っています。幼稚園で週に一回ある合同礼拝の中で、保育者の弾くオルガンと共に讃美歌の伴奏として奏でるのです。全園児の前で演奏することに緊張しながらも、子どもたちは指揮を見ながら精一杯、心を込めて演奏。礼拝が終わると、「緊張したあ……でも、楽しかった!」「またやりたい!」と、目をキラキラさせています。演奏する友だちに憧れの目線を送る子、自分もやってみたい!と思う子も多くいます。

### ハンドベルでつながり続ける 子どもたちの絆。

幼稚園の子どもたちにとって、ハンドベルという楽器はとても身近なものになっています。コーナーとしての活動や礼拝の中での奉仕だけでなく、希望者に対する課外活動、クリスマスでの讃美歌の伴奏……。クリスマスの親子礼拝では、金城学院中学高校や大学のハンドベルクワイアを招いて、ミニコンサートを行うこともあります。卒園してからも課外活動として、小学生のグループ『ひかりの子』や中学生以上のグループ『Vivo』に所属し、ハンドベルに親しみ続ける子もいます。これからも幼稚園と子どもたちと共に、ハンドベルは歩み続けるのです。



## グリークラブが2つのコンクールで素晴らしい成果をおさめました。

金城学院高校グリークラブは、7月30日に行われた第91回NHK全国学校音楽コンクール(以下Nコン)の予選を勝ち上がり、8月21日に行われた本戦で金賞を受賞。愛知県代表として東海北陸ブロックコンクール(9月15日)に出場し、銀賞を受賞しました。全国大会にはあと一歩及びませんでしたが、堂々2位という素晴らしい成績をおさめることができました。

また、8月4日に開催された合唱連盟主催第64回愛知県合唱コンクールでは、高等学校部門Aグループで金賞を受賞。愛知県代表として第77回中部合唱コンクール(9月28日)に出場し、高等学校部門Aグループの金賞に輝きました。

### Nコンのブロック大会出場は8年ぶりの快挙。

Nコンは小・中・高校生が参加する日本最大規模のコンクールで、合唱に取り組む生徒たちにとっては憧れのコンクール。金城のグリークラブがこのNコンで愛知県代表となり、東海北陸ブロック大会に進出したのは8年ぶりのこと。しかも銀賞受賞という快挙を成し遂げました。課題曲は依万智作詞、松下耕作曲の「明日のノート」。自由曲は山村暮鳥作詩、信長貴富作曲の「種子はさへずる」から2曲を選び、みごとに歌い上げました。部長の中島万結さん(高3)は、「全国大会を逃した悔しさはもちろんありますが、でも、銀賞で2位。嬉しい気持ちと誇らしい気持ちもあります」。副部長の小島花菜さん(高3)も、「東海北陸ブロック進出が私たちの大きな目標だったので、それを達成できたことは誇りに思います」と話します。

練習時はいつもお揃いのTシャツ(毎年高校3年生がデザイン)で。練習前には必ず体幹を鍛えるトレーニングを行うため、ヨガマットは練習の必需品です。



コンクールの本番を間近に控え、講堂で練習に励む部員たち。



今年手にした賞状の数々。

\* +  
\* \ Congratulations! / \*  
\* +



部員たちを引っ張ってきた3年生の部員と、顧問で指揮者を務める宮木令子先生(右)、顧問の長谷川敦子先生(左)。

### 今までで最高の演奏ができた中部合唱コンクール。

中部合唱コンクールでは、課題曲ヴィクトリア作曲「O Vos Omnes」と、自由曲「種子はさへずる」から3曲を演奏。全国大会への出場こそ逃したものの、持ち前の美しいハーモニーで金賞を受賞。顧問で指揮者を務める宮木令子先生も、「今までで一番いい演奏ができた」と振り返ります。「大事なことは、勝敗よりも、悔いのない演奏ができたかどうか。そういう意味では、生徒たちは思いっきり楽しんで、最高の舞台を作ってくれました」。

2つの大きなコンクールで優れた成績を残した要因は、「一人ひとりが、一つひとつの言葉を大事に、しっかりと声が出せていたこと。素直で自然な歌声が、聴く人の心にまっすぐ届いたのだと思います」と、宮木先生。生徒たちの仲が良く、結束力が強いことも、今回の成果に表れていると言います。今年のコンクールシーズンは終了したものの、メサイア演奏会、クリスマスコンサート、定期演奏会など、秋冬期も大切なイベントが目白押し。まだまだ気が抜けません。放課後の音楽室からは、今日も、澄んだ歌声が聴こえてきます。



8月4日、稲沢の名古屋文理大学文化フォーラムで開催された第77回愛知県合唱コンクールの様子。



## 大学生 × 中学生コラボイベント 「英語勉強会」と「ミニ模擬国際会議」を開催。

この夏休みを利用して、金城学院中学校 英語科では、金城学院大学 文学部英語英米文化学科との共催で、「英語勉強会」と「ミニ模擬国際会議」、2つのイベントを行いました。会場はどちらも金城学院大学。中学・高校・大学を擁する金城学院ならではの教育プログラムで、英語を学ぶ楽しさ、金城学院大学で学ぶ魅力にふれることができました。

武岡ひかりさん(左)と富田旭さん(右)を囲んで、今回のイベントを企画・主催した水野典子先生(英語科教員)と梅田宗史朗先生(英語科教員)。



### 英語勉強会

～大学生と一緒に英語を勉強しよう～

08/01(Thu)/2024

「英語勉強会」は、英語が好き!という人も、英語の宿題をひとりでやる自信がないなあという人も、誰もが参加できる勉強会で、当日は中学1年生から3年生までの46名が参加。中学生3～4名にひとりの大学生が付き、夏休みの英語の宿題や英検に向けた勉強など、わからないことを教えてもらいました。この日は「キャンパス探検」や学食での「ランチ交流会」も催され、金城ならではの世代を超えた交流を楽しむことができました。



個別指導塾のような雰囲気の中で、楽しく集中して学習できました。

「どうしたら単語をたくさん覚えられるの?」、「英会話が上達するコツは?」など、さまざまな質問が飛び交いました。



大学の食堂でランチ交流会。



コンビニの品揃えの豊富さにびっくり。

大学生の先輩と英語学習。夏休みのいい思い出になりました。

勉強会に参加しようと思ったのは、夏休みの英語の宿題をひとりでやるよりはグループで一緒に勉強した方が楽しいだろうと思ったから。大学生のお姉さんが、わからないところを優しく、ていねいに教えてくださり、宿題がはかどりました。一番心に残ったのは、「単語は絶対を書いて覚えること。語彙力があれば、英文の意味もわかってくる」というアドバイス。とても参考になりました。

武岡ひかりさん(中1)

### 「ごみ問題」を英語でスピーチ ミニ模擬国際会議

08/06(Tue)・08(Thu)/2024

金城学院大学英語英米文化学科では、英語スペシャリスト養成プログラムを受講する大学4年生が、毎年様々な社会問題をテーマに「模擬国際会議」を行っています。模擬会議では学生たちが世界各国の代表になりきって英語でスピーチ。専用のブースを使っての同時通訳も行っています。今回はこの模擬国際会議に13名の中学生(Advanced English Class受講者)がチャレンジ!日本、フィリピン、スウェーデン、アメリカ、オーストラリアの5つの国、それぞれの代表としてごみ問題の状況や解決策を英語でスピーチしました。



大学生の力を借りながらスピーチの準備。英語の資料や動画を見ながら、スピーチの原稿をつくりました。

英語でスピーチする中学生たち。



専用ブースで同時通訳をする大学生。



大学生も中学生も、互いに学びあうことが多い有意義なイベントとなりました。



英語でスピーチする面白さを体感。機会があれば、ぜひまた挑戦したい。

模擬国際会議で、私は日本を担当。日本のごみ問題を調べる中で、瀬戸内海で海洋ごみ対策事業に取り組んでいるプロジェクトに着目。この活動の中にごみ問題を解決するヒントがあると思って、スピーチの題材にしました。専門用語や初めて聞く単語がたくさんあって苦労しましたが、まずまずのスピーチができたと思っています。大学生が同時通訳する姿を見て、「私ももっと英語の力をつけ、先輩のようになりたい!」という新たな目標が生まれました。

富田 旭さん(中3)